

第4学年1組 社会科授業案

場 所 4の1

授業者 伊藤 邦子

1 単 元 「地いきの歴史さがし」～昔の様子を伝えるものやお祭り～

2 単元目標

- ・ 校区の人々が受け継いできた文化財や年中行事に関心を持ち、進んで調べることができる。(関心・意欲・態度)
- ・ 古くから伝わる文化財や年中行事を調べることを通して、生活の安定と向上に対する地域の人々の願いについて考えることができる。(社会的思考・判断)
- ・ 校区に受け継がれている文化財や年中行事について資料から読み取ったり、観察したことを白地図に書き表したりすることができる。(観察・資料活用の技能・表現)
- ・ 古くから伝わる文化財や年中行事を保存、継承するための工夫や努力を理解することができる。(知識・理解)

3 評価の観点

関心・意欲・態度	社会的思考・判断	観察・資料活用の技能・表現	知識・理解
自分が住んでいる地区を中心に、玉川校区に伝えられているものを進んで調べることができる。	校区に伝えられている文化財や年中行事の人々の願いを考えることができる。	文化財や年中行事が残されている場所を地図から読み取ることができる。調べたことを白地図に記入することができる。	自分が住んでいる地区の人々が文化財や年中行事を受け継ぎ、具体的に何をしているかを知る。

4 単元について

(1) 子どもの実態

3年生までの学習では「地域に市民館や消防署などいろいろなものがあり、どのように土地が利用されているか」、「自分たちの生活を守るために多くの人々が努力していること」を学習してきている。そのため地域にある物や栽培されている作物などについては理解できている。また地域の人々の営みについても一定の理解はある。

本学級の児童は、見学に出かけたり、見学先で見てきたことを発表したり、意欲的に取り組むことができる。積極的に発言をしようと、挙手をする児童も多い。ただし自分の言いたいことを分かりやすく相手に伝える力がやや弱い。教師に言われたことはきちんとやろうとする良い面がある一方で、主体的に学習に取り組む姿勢は、今一步のところが見られる。

しかし本単元に入ってから、積極的な姿勢の児童も増えた。森岡や東森岡のように新興住宅が多い地区の子どもたちも、石巻神社の「一の鳥居」や三本松公園の横にある水車（実際には最近作られた水車）を自分たちで見に行っている。長楽や和田など、昔から住んでいるところで伝えられているものが多くある地区の子どもたちは、近所にある歴史的遺物を発見したことをとてもうれしそうに、友だちに話している。

また三世代同居の児童が約35%（神ヶ谷2名、和田3名、高井1名、長楽1名、森岡1名）おり、家庭で地区のことが話題にのぼる機会が高いことも想像される。そのため、4年生のこの時期に、初めての歴史教材ではありながら、張り切って取り組んでいる児童が多い。

この単元では、3年生までの学んだものを手がかりとし、校区に伝わっている文化財や年中行事を見つけ、そこに込められた人々工夫や努力、願いをこめて伝えていることに気づくことを願っている。

(2) 教材観

本単元は、大単元「地いきの歴史さがし」を構成する三つの小単元のうちの一つである。

ここでは、地域に残る文化財や年中行事について調べる活動を通して、人々がどのような願いをもって暮らしてきたかを考え、地域社会に対する誇りと愛着を育んでいくことをねらいとしている。

本校学区には、^{のや}篋矢神社の篋矢太鼓、^{すぎもと}梶本神社の綱火、廣福寺の笛掘りなど、文化財や年中行事が各地区に残されている。子どもたちが小さい頃からあたり前のこととして親しんでいる篋矢太鼓や綱火であるが、行事への参加理由は、ただ「楽しいから」がほとんどである。しかし玉川校区に残されている文化財や年中行事は、子どもたちの興味をひくだけでなく、年代が書かれていたり複数あり比較がしやすかったりするなど、学習の追究に耐えうるものが多く、さらにそこに込められる人々の気持ちも深いものがある。

以上の点で古くから伝えられてきたものの意味や願いについて考えることは、自分が今、あるいは大人になってから地域とどのようにかかわっていくかを考えるきっかけになり、地域社会の一員としての自覚をもたせるうえで意義のある内容と考え、本単元を設定した。

(3) 指導に当たって

本単元の中心では各地区に残る常夜燈を取り上げる。常夜燈がある地区は長楽や高井、和田である。この地区の子どもたちでさえ「どうして常夜燈に今でも灯りを灯すのか」については、「昔からの習わしだから。」の一言で済ませてしまうことが予想される。

そこで

①実際に校区を歩き、実物に触れられるようにする。常夜燈を実際に観察、調査に行くときには、ろうそくで灯りをともす長楽地区と電気で灯りを灯す和田地区があること、どちらの常夜燈にも「村中安全」と刻まれていることをおさえない。

②その中で長楽のようにろうそくから電気にかえる機会があつたにも関わらず、先人の気持ちをくみ取り、伝えられたままを受け継ごうとする地区の人々の活動と、電灯にする合理性で常夜燈を守ろうとする地区の人々の活動の、両方を理解する。

③森岡や東森岡は常夜燈がなく、街路灯が整備されていて、日常生活には困っていないこと。

④姫街道が校区を通っており、常夜燈は旅人の道標となったり、地区の人々の見知らぬ人への警戒だったこと。

これらの学習をすることで、地域の人々が、先人達の「地区が安全でありますように」、「発展しますように」などの願いを受け継ぎ、次世代へ伝えようとしている思いに気づかせたい。

また情報収集やまとめができるように、できるだけ具体的な支援をしたい。

①資料としては、校区のあゆみ「玉川」や森岡、東森岡、神ヶ谷の三町で出版した「神ヶ谷三町史30年のあゆみ」などが挙げられるが、子どもたちには難しいものが多い。そのため、分かりやすく文章を書き直したり文意を伝えたりしていく。

②聞き取りでは、「常夜燈について聞いてくるように」だけでなく「常夜燈には何と書いてあるか」、「お寺や神社の行事はおじいさんに聞くといいよ」など、内容や相手をできるだけ具体的に聞くように指示したい。

そして何より現地には足を運び、実物をみるようにしたい。その折りには「碑の裏側や横をみるとよい」「文字や数字に着目する」など、ポイントを伝える。こうすることで小学校で初めての歴史教材でも、戸惑う児童が少しでも減るように支援をしていきたい。

5 単元構想（全12時間）

自分たちが住んでいる地区に伝わるものを探そう。（5時間）

・高井
慈雲寺
長谷寺
高井神社

常夜燈
・古いものがありそうだけど、よくわからないなあ。

・長楽
姫街道
鎌倉街道
ヒノキ

八幡社
長楽寺
常夜燈
・長楽は町全体が古いよ。

・和田
道路元標
馬頭観音
根本神社（綱火）

春興院
常夜燈
・古いものたくさんあるから自慢できるよ。

・神ヶ谷・東森岡
笹矢神社
廣福寺
六地藏

・神ヶ谷と東森岡は人数が少ないし、場所が近いから一緒にやるよ。

・森岡
森岡古墳
森岡神社

石巻神社一の鳥居
・森岡に古いものはないと思ったけど、あったよ。

※地区別に集まり、古いものを調べる。可能な限り現地に出かけ、現物を見るように促す。

※家族からの聞き取り、資料からの読み取り、インターネットなど、調べ学習にはいろいろな方法があることを知らせ、可能な限り経験できるようにする。

・地区別に紹介するよ。（1時間）

・常夜燈が三つの地区にあるんだね。（4時間）

・自分たちの地区には常夜燈があるよ。

・自慢できるものだよ。
・自分たちの地区では、雨が降っても当番だったら、常夜燈まで行って灯りをつけるよ。
・常夜燈がある地区に住んでいる人は灯りをつけるのは当たり前だよ。

・自分たちの地区には常夜燈はないよ。

・常夜燈なんて知らない。
・面倒じゃないのかな。
・和田みたいに電気ならまだいいけど、ろうそくなんて、危ないよ。
・自分たちは常夜燈がなくても、全然困ってないよ。
・忘れたら地区の他の人に怒られそうだよ。

そもそも常夜燈の役割はなんだろう。

防犯

道標

防火

・自分たちの地区にはないけど、防犯など、大丈夫だよ。
・街路灯のようなものだけど、街路灯の方がずっと明るい。
・ろうそくだけで明るいのかな。
・常夜燈より街路灯の方が明るいし、常夜燈の役割はもうないよ。

常夜燈に、どうして今でも灯りなんてつけるのかな。（1時間 本時）

昔の人々の思い

・昔の生活には役に立っていて、その時の人々は常夜燈に対して、とても感謝していたはずだから、簡単に壊したりはできないよ。
・昔の人たちが玉川を守ってくれていたから、今の玉川があると思うよ。

現在でもよいところ

・今だって、常夜燈は役にたつことがあると思う。みんなで集まるには目印になるよ。
・地区の安全のシンボルになっていると思うよ。

常夜燈には今までの人たちの思いが込められているから、残しておく意味があるんだよ。

・今でも安全な生活を送りたいよね。
・常夜燈には昔の人々と今の私たちのいろいろな願いが込められているんだね。

・未来の玉川ここに手紙を書こう（1時間）

・自分たちも昔の人にも守られていたんだよ。未来のあなたも安心して生活できるように、自分ができることを考えて、玉川校区を大切に生活していくよ。

6 本時の学習

（1）目標

- ・現在でも常夜燈に灯りをつけている人々の、地区に対する思いや願いを考えることができる。
- ・常夜燈の役割を理解した上で、自分の考えを持つことができる。

(2) 学習にあたって

これまでの授業で、子ども達は校区に伝えられてきているものを現地まで出かけて、見てきた。どの見学先でも意欲的に対象物をのぞき込んだりメモをとったりしていた。

本単元の中心で取り上げる常夜燈の見学は長楽と高井、和田の三カ所を見に行った。そこで、それぞれに共通する「村中安全」という言葉や灯明台があることなどを見つけてきている。

本時は、現在でも常夜燈に灯りをつけたり、壊されずに残されたりしている理由を考える。常夜燈が残されている長楽や高井、和田の地区の子どもたちのほとんどは、常夜燈に対して肯定的に受け止めている。彼らの姿をみて、常夜燈がない地区の子どもたちもうらやましく思っている児童がいる。子ども達が意見を出すときには、想像したことではなく、「誰が」言っていたか、「どこが」どうなっていたかなど、根拠や事実裏打ちされた意見を出させたい。

また話し合いは常夜燈を肯定する方向で進むことが予想される。しかし授業の早い段階で、常夜燈より街路灯の方が明るいため、現在では常夜燈が残されているのは道標や防犯、という理由より、先人の気持ちを大切に受け継ごうという地区の人々の思いによることに気づかせたい。

(3) 展開

時間	学 習 活 動	○指導 *支援 ☆評価
5	常夜燈の役割を思い出そう。 ・道標…姫街道を通る人たちにとっては、大切だね。 ・防火…火事にならないように守ってくれているよ。 ・防犯…明るくしておくとか、悪い人が入りにくいよ。	○常夜燈の最も大きな役割は防火だと子どもたちは考えている。しかし道標としての役割の大きさを確認し、次段階へのステップとする。
10	写真を見てみよう。 ・街路灯の方が明るいから、夜も怖くないね。 ・明るい方が安心して歩けるよね。 ・防犯だけが常夜燈の役割ではないから、常夜燈が暗くても大切なものだと思う。	○街路灯の方が明るいことをつかませるために、街路灯と常夜燈が写っている写真を提示する。 ○子どもたちは常夜燈を肯定する立場で意見を出すと予想される。そのため、授業者が街路灯の方が明るく大きな役割があることを強調する。
40	常夜燈より、街路灯の方が明るいのに、どうして今でも常夜燈に灯りを灯すのだろう。 昔の人々の思い ・昔はろうそくだけでも、とても明るかったって聞いたよ。だから地区が守れるという昔の人は考えた。常夜燈には昔の人の願いがこめられているものだから大切にする。 ・姫街道があるから、夜歩いてきた旅人が常夜燈の灯りをみて安心した。旅人の気持ちも常夜燈にはあるっておばあちゃんが言っていたよ。 現在でもよいところ ・火を灯しにいくときには、「火事には気をつけなさい」って、おじいちゃんが言うから、安全に気をつけるきっかけになっていると思うよ。 ・常夜燈のまわりを掃除するときには、集まったときおしゃべりして、楽しいよ。 ・お母さんは集まったときに、いろいろ相談したり教えてもらったりしているよ。	○意見を出すときには、「だれに」聞いたか、事実はどうなっているかなど、根拠をはっきりさせる。 ○はっきりした根拠の上で、自分の考えを持つようにさせる。 ○常夜燈本来の意味だけでなく、現在では地区の人々の交流にも役立っていることにふれられる意見が出るとよい。 ○出された意見を分類し、昔も現在も人々の思いがあることをはっきりさせる。
45	今日の授業で思ったことをまとめよう。 ・常夜燈の役割は街路灯より小さいけど、地区の人々の思いは、街路灯よりずっと深いんだね。 ・おばあちゃんが、石でできている常夜燈を「お火がみ様」って呼ぶのはどうしてだろうと思っていたけど、昔の人と今の人の思いがこめられているから「様」がつくんだって分かった。 ・常夜燈はのぼったりすると面白いって思っていたけど、本当に大切なものなんだね。	★〈社会的思考・判断〉 (発言・ノート) A：常夜燈に対する地区の人の思いを理解した上で、自分の考えを持つことができる。 B：常夜燈に込められた人々の思いを考えることができたか。 *紹介された地区の人々の多様な考えを聞くことで、自分の考えを持つための参考とする。
	(次時) 思いをこめて伝えられてきた常夜燈だけれど、自分たちは未来に向かって何ができるか考えよう	